

平成 22 年 5 月 27 日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18202028
 研究課題名（和文）
 フィールドワークの理論と手法に関する総合調査：海外学術調査の展開をととして
 研究課題名（英文）
 The Synthetic Studies on the Theory and Method of Fieldwork: On the Basis of the Development of Overseas Scientific Research
 研究代表者
 真島 一郎 (MAJIMA ICHIRO)
 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
 研究者番号：10251563

研究成果の概要（和文）：

(1) 各年開催の総括班フォーラムをはじめ、先端的な研究を進めている若手研究者間の学際的交流を目的とした「フィールドネット」を創設するなど、海外学術調査に従事する研究者間の連携ネットワークの持続的な基盤を確立した。(2) 各年開催の連続ワークショップをはじめ、海外調査では文理共存の実験的な共同フィールドワークを実施するなど、臨地調査をふまえたフィールドサイエンスの構築手法をめぐる発展的な可能性を呈示することができた。

研究成果の概要（英文）：

1. The sustainable groundwork for the cooperative networks among the Japanese researchers planning fieldwork abroad was firmly established, through the "Grand Forum" held in every year, the "Field Net" founded to promote the interdisciplinary exchanges among the young leading researchers etc. 2. The promising possibility on the methodology for the construction of "Fieldscience" based on the fieldwork abroad was concretely drawn up, through the "Successive Workshops" held in every year, the experimental interdisciplinary fieldwork abroad etc.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2006 年度	8,800,000	2,640,000	11,440,000
2007 年度	8,400,000	2,520,000	10,920,000
2008 年度	8,600,000	2,580,000	11,180,000
2009 年度	8,400,000	2,520,000	10,920,000
年度			
総 計	34,200,000	10,260,000	44,460,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・民族学

キーワード：地域、情報提供、海外学術調査、フィールドサイエンス、フィールドワーク

1. 研究開始当初の背景

(1) 海外学術調査に従事する研究者が、各自の研究成果をたがいに参照・利用できるための土台となる組織が国内で求められていた。

(2) 各学問分野におけるフィールド調査の

手法を相互に摂取した、フィールドサイエンスの具体的な姿が諸分野で求められていた。

2. 研究の目的

(1) 海外学術調査に従事する研究組織の連携ネットワーク確立にむけた基盤整備を行い、学際的な情報交流を促進する。

(2) フィールドワークに従事する学問諸分野の手法と理論を比較・検討し、フィールドサイエンスの構築可能性を呈示する。

3. 研究の方法

(1) 研究分担者会議の開催：フィールドサイエンスの手法高度化に関わる分析とともに、学問分野をまたぐ共同調査の可能性についての議論を進展させる目的で、各年度4回の研究分担者会議を開催する。

(2) 総括班フォーラムの開催：科学研究費・基盤研究（海外学術調査）により当該年度に海外学術調査を計画している研究組織に、高度な研究交流の場を提供する目的で、各年度1回の総括班フォーラムを開催する。同フォーラムでは、日本学術振興会の科学研究費事業担当者をまじえた全体会議とともに、以下の構成による地域別分科会を同時開催する。

- ① 大陸部東南アジア分科会
- ② 島嶼部東南アジア・太平洋分科会
- ③ 東アジア分科会
- ④ 南・西アジア・北アフリカ分科会
- ⑤ 北ユーラシア・中央アジア・極地分科会
- ⑥ サハラ以南アフリカ分科会
- ⑦ アメリカ大陸および超域分野分科会

(3) 連続ワークショップの開催：文理共存型のフィールドサイエンスの構築可能性に関する具体的な議論の場として統一テーマを設定したうえで、上記フォーラムと同日に、連続ワークショップを各年度1回開催する。

(4) フィールドサイエンス情報システムの構築と公開：調査地域情報、科学研究費海外学術調査関係者情報、科学研究費海外学術調査成果情報など、フィールドサイエンス関連の複合的な資料群を整備・整序したうえで、これをウェブ上で公開する。

(5) 海外調査：フィールドサイエンスの手法面における高度化をめざし、各年度ごとに下記の「重点調査対象地域」を設定したうえで、海外の学術研究体制にかかわる動向調査を実施する。

- ① 東・東南アジア・オセアニア地域
- ② 中・南・西アジア地域
- ③ アフリカ地域
- ④ 中南米地域

4. 研究成果

(1) 海外学術調査に関する研究者連携ネットワーク確立にむけた基盤整備

① 総括班フォーラム：日本学術振興会科学研究費事業担当者を講演者にむかえた各年度1回の全体会議では、「科研費の執行」に関する概略説明と全体質疑をふまえること

によって、予算執行の枠内で構想しうる研究ネットワークの可能性が個別の学問分野をまたぐ研究者間で討議された。また、これに引き続き、全7会場で同時に開催された地域別分科会では、とりわけ世界規模の環境や災害にかかわるグローバルイシューに対し、日本の学際的な海外学術調査研究ネットワークがいかなる貢献を示しうるかなどの重要かつ具体的な論点が提起され、国際社会における超域的な学術情報交換の価値についての認識が深められた。

② フィールドネットの創設：研究分担者会議や上記フォーラムにおける討議の蓄積をふまえ、「フィールド研究者ネットワークウェブ構築委員会」を母体とする新たな連携研究ネットワークの試みとして、「フィールドネット」の組織を創設した。同組織は、近い将来に科学研究費・基盤研究（海外学術調査）枠の研究代表者となることが有望視される各学問分野の若手研究者を主軸とした知的交流の場である。ウェブ上で各自の研究テーマをアピールし、専門地域に関する学術的情報を相互提供することによって、地域と分野をまたぐ超域的な知の形態を共同で構築していくことが期待されている。

③ 電子公開情報の充実と強化：平成17年度の科学研究費補助金（研究成果公開促進費）をもとに開設した「国際学術研究調査関係研究者データベース」に資料としての持続性を保証するため、その内容を維持・充実させた。日本における昭和38年度以降の海外学術調査関連情報を電子化して一括呈示することにより、海外学術調査を行う研究者にとって現在の研究が過去のいかなる学術調査と研究上の連関をもち、また通時的にはどのような発展可能性があるかということの可視化に貢献した。同データベースにより、今後新たに超域的な研究ネットワークが構築されるための史資料的基盤が整備された。さらに、本研究課題の活動全般に関する電子公開情報についても、更新維持作業だけでなく、情報受信者にとっての俯瞰性をいっそう強化するため、構成に改良と拡充を施した。

(2) 海外学術調査に関する手法と理論の超域的な比較検討作業を通じた、フィールドサイエンス構築可能性の呈示

① 連続ワークショップ：各年度1回開催する連続ワークショップの統一テーマを『フィールドサイエンスと超域的ネットワーク』と題したうえで、調査地域と学問分野の双方をこえるという意味での「超域的」研究ネットワークがもたらすフィールドサイエンス構築の可能性について、その具体的諸相を呈示

した。とくに、自然科学においてすでに着手されている大規模生物多様性情報やGEOSS（全地球観測システム）の取り組みが、超域的研究ネットワークのもとで今後確実におびる可能性や、人間と自然環境とのインターフェイスを分析する点でそれ自体が文理融合的な視点を要求する、グローバル 이슈としての環境情報の活用可能性を、具体的な事例を通じて呈示した。

② フィールドサイエンス・コロキウム：フィールド調査を中心とした研究手法を個別の学問分野をまたいで比較検討する目的から東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所で2006年に以降創設された研究ネットワーク公開組織「フィールドサイエンス・コロキウム」と連携することにより、フィールドサイエンス関連の理論と調査手法の各論的な検討を行った。その結果、とくに2006年度の連続ワークショップで議論の対象となった、GIS/GPS/リモートセンシングの利用可能性をめぐる「フィールドサイエンスと空間情報科学」の可能性に焦点が当てられ、3次元GISを用いた超域的研究コミュニティ構築の手法や、都市部の環境保全学、開発と環境消失の時空間分析、ランドサットの活用による先史人類生態のエージェントシミュレーションなど、多様な論点にかかわる超域的ネットワーク構築の具体的な手法、およびフィールドサイエンス構築にむけた指針を呈示した。

③ 海外調査：研究分担者会議における総合的な討議と提案をふまえ、分野を異にする複数の研究者が特定の地域で同時に調査を遂行するという、文理共存型の実験的な「短期複合的調査」に着手し、その調査結果を呈示した。具体的には、チリ・パタゴニアの植物化石資料による古植生の変遷研究の自然科学系専門家と、中央アンデス南部高地農村部の牧畜活動研究の人文系専門家との協同により、超域的なフィールドサイエンスの一例となる研究テーマとして「ヒトの環境利用の一環としての耕地ローテーションによる食糧生産」のテーマが案出され、協同調査の現場で生起する現実の諸相についての調査報告が得られた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計40件）

① V. Prasanna and T. Yasunari, Time-Space Characteristics of Seasonal and

Intrannual Variations of Atmospheric water balance over South Asia., J. Meteorol. Soc. Japan, 査読有, vol. 87. no. 2, 2010, pp. 263-287

② Ebihara, A., Matsumoto, S. and Ito, M., Hybridization Involving Independent Gametophytes in the *Vandenboschia radicans* complex (Hymenophyllaceae): A New Perspective on the Distribution of Fern Hybrids., Molecular Ecology, 査読有, 18, 2009, pp. 4904-4911

③ Nakagawa, S. and Ito, M., Development and characterization of microsatellite loci in *Ixeridium dentatum* (Asteraceae, Lactuceae), J. Plant Res., 査読有, 122, 2009, pp. 581-584.

④ Fukuyama, S., Watanabe, C., Umezaki, M., and Ohtsuka, R., Twenty years' demographic change in sedentes and migrants of an international migrant-sending community in Tonga., Journal of Biosocial Science., 査読有, 41, 2009, 77-87

⑤ Umezaki M. and Jiang HW., Changing adaptive strategies of two Li ethnic minority villages in a mountainous region of Hainan Island, China., Southeast Asian Studies, 査読有, 47, 2009, pp. 348-362.

⑥ 三宅隆之、平林幹啓、植村 立、東久美子、本山秀明、極域氷床深層コアの化学成分分析用試料の汚染除去前処理方法の検討、南極資料、査読有、Vol. 53, No. 3、2009、pp. 259-282.

⑦ Yoshinori Iizuka, Takayuki Miyake, Motohiro Hirabayashi, Toshitaka Suzuki, Sumito Matoba, Hideaki Motoyama, Yoshiyuki Fujii and Takeo Hondoh, Constituent elements of insoluble and non-volatile particles during the Last Glacial Maximum of the Dome Fuji ice core., Journal of Glaciology, 査読有, 55, 2009, pp. 552-562.

⑧ Oouchi, K. A. T. Noda, M. Satoh, B. Wang, S. P. Xie, H. G. Takahashi and T. Yasunari, AsianSummer Monsoon Simulated by a Global Cloud-System-Resolving model: Diurnal to Intra-Seasonal Variability., Geophys. Res. Lett., 査読有, vol. 36., 2009, L11815. doi:10.1029/2009GL038271

⑨ Takata, K., K. Saito and T. Yasunari, Changes in the Asian monsoon climate during 1700-1850 induced by pre-industrial cultivation., Proc. Nat. Acad. Sci., 査読有, 2009, doi:10.1073/pnas.0807346106

⑩ Suwanrungruang, K., Sriamporn, S., Wiangnon, S., Rangsrakajee, D., Sookprasert, A., Thipsuntornsak, N., Satitvipawee, P., Poomphakwaen, K., and

Tokudome, S., Lifestyle-related risk factors for stomach cancer in northeast Thailand., Asian Pac. J. Cancer Prev., 査読有, 9, 2008, 71-75

⑪ 亀田貴雄、本山秀明、藤田秀二、高橋修平、南極ドームふじにおける1995年から2006年の表面質量収支の特徴、南極資料、査読有、52、2008、151-158

⑫ 本山秀明、古川晶雄、西尾文彦、GPS相対測位による最近の東南極氷床の白瀬流域及びドームふじ周辺の氷床流動観測、南極資料、査読有、52、2008、216-231

⑬ Suto, Y., Saito, S., Osada, K., Takahashi, H., Motoyama, H., Laboratory experiments and thermal calculations for the development of a next-generation glacier-ice exploration system: Development of an electro-thermal drilling device., Polar Science, 査読有, 2, 2008, 5-26

⑭ Ichikawa, H and T. Yasunari, Intraseasonal variability of diurnal rainfall over New Guinea during austral summer, Journal of Climate, 査読有, Vol.21, 12, 2008, 2852-2868

⑮ Takahashi, H. and T. Yasunari, Decreasing Trend in Rainfall over Indochina during the Late Summer Monsoon: Impact of Tropical cyclones, J. Meteorol. Soc. Japan, 査読有, vol/86, No. 3, 2008, 429-438

⑯ 大塚和夫、「知識を共有する、秘匿する、隠蔽する、忘却する—記憶と記録をめぐる覚書」、『資源人類学 03 知識資源の陰と陽』、査読有、03、2007、161-218

⑰ Umezaki M., Sengebau-Kinzio MJ, Nakamura K, Ridep E, Watanabe M, Takano T, Household risk factors associated with dengue-like illness, Republic of Palau, 2000-2001., BioScience Trends, 査読有, 1, 2007, 33-37

⑱ Maharjan M, Watanabe C, Ahmad SA, Umezaki M., Ohtsuka R, Mutual interaction between nutritional status and chronic arsenic toxicity due to groundwater contamination in an area of Terai, lowland Nepal., Journal of Epidemiology and Community Health, 査読有, 61(5), 2007, 389-394

⑲ Andoh, S.Y., Umezaki, M., Nakamura, K., Kizuki, M., and Takano, T., Association of household demographic variables with child mortality in Cote d'Ivoire., Journal of biosocial Science, 査読有, 39, 2007, 257-265

⑳ Kuroda Y., Sato Y. Bounphanousay C., Kono Y. and Tanaka K., "Genetic Structure

of Three Oryza AA Genome Species (O. rufipogon, O. nivara and O. sativa) as Assessed by SSR Analysis on the Vientiane Plain of Laos.", Conserv. Genet., 8, 2007, pp.149-158.

㉑ 佐藤洋一郎共著、「『地球環境と焼畑』特集 焼畑と火の思想」『季刊 東北学』、査読有、第11号、2007、50-55

㉒ Hiroaki Tabuchi, Yo-Ichiro Sato, and Ikuo Ashikawa, Mosaic Structure of Japanese Rice Genome Composed Mainly of Two Distinct Genotypes, Breeding Science, 査読有, No3, 2007, 213-221

㉓ Imaeda, N., Goto, C., Tokudome, Y., Hirose, K., Tajima, K., and Tokudome, S., Reproducibility of a short food frequency questionnaire for Japanese general population., J Epidemiol., 査読有, 17, 2007, 100-107

㉔ Feng, X., Goto, K., Fujiwara, N., Miyaji, M., Yamada, K., and Tokudome, S., Construction of an electronic medical record system at a Japanese university hospital - The Nagoya City University Hospital experience., Nagoya Med. J., 査読有, 48, 2007, 87-99

㉕ 真島一郎、「ウフエ=ボワニの統治倫理に関する覚書」、佐藤章 編『統治者と国家—アフリカの個人支配再考』、査読有、2007、277-345

㉖ Uemura, R., Y. Matsui, H. Motoyama, N. Yoshida, Deuterium and Oxygen-18 Determination of Microliter Quantities of a Water Sample Using an Automated Equilibrator., Rapid communication in mass spectrometry, 査読有, Volume 21, 2007, 1783-1790

㉗ 安成哲三、岩波書店編集部編、古典から読む「地球学」の精神、岩波科学ライブラリー ブックガイド文庫で読む科学、査読有、132、2007、81-92

㉘ Yasunari, T., Role of Land Atmosphere Interaction on Asian Monsoon Climate, Journal of Meteorological Society of Japan, 査読有, 85, 2007, 55-75

㉙ Fukutomi Y., K. Masuda and T. Yasunari, Cyclonic Activity Associated with the Interannual Seesaw Oscillation of Summer Precipitation over Northern Eurasia., Global and Planetary Change., 査読有, 56, 2007, 387-398

㊱ 内堀基光、「声と言葉の力：ボルネオ・イバンの祭文をめぐることば」、『自然と文化そしてことば』、1号、2006、pp.74-80.

㊲ 内堀基光、「社会空間としてのロングハウス：イバンの居住空間とその変化」、『社会空間の人類学：マテリアリティ、主体、モダニ

ティ』(西井凉子、田辺繁治編)、2006、pp.92-115.

③② 梅崎昌裕、「『記録』でよみがえる『記憶』—人類学における衛星画像の利用」、歴博、134、2006、pp.6-10.

③③ Andoh, S. Y., Umezaki, M., Nakamura, K., Kizuki, M., and Takano, T., Association of household demographic variables with child mortality in Cote d'Ivoire., *Journal of biosocial Science*, 120, 2006, pp.257-265.

③④ Andoh, S. Y., Umezaki, M., Nakamura, K., Kizuki, M., and Takano, T., Correlation between indebtedness, HIV/AIDS, and political status and mortalities in African countries., *Public Health*, 120, 2006, pp.624-633.

③⑤ Jiang, H. W., Umezaki, M., and Ohtsuka, R., Inter-household variation in acceptance of cash cropping and its effects on labor and dietary patterns: a study in a Li hamlet in Hainan Island, China., *Anthropological Science*, 114, 2006, pp.165-173.

③⑥ R. Ishikawa, S. Yamanaka, Y-I Sato et al., Genetic erosion from modern varieties into traditional upland rice cultivars (*Oryza sativa* L.) in northern Thailand, *Genetic Resources and Crop Evolution*, 53, 2006, pp.245-252.

③⑦ 真島一郎、「中間集団論—社会的なるものの起点から回帰へ」、『文化人類学』、査読有、71(1)、2006、pp.24-49.

③⑧ 真島一郎・河合香吏、「変貌するアフリカ・変貌する諸学との対話へむけて—21世紀のアフリカ研究と生態人類学」、『アフリカ研究』、査読有、69、2006、pp.75-80

③⑨ B. Goswami, G. X. Wu, T. Yasunari, The Annual Cycle, Intraseasonal Oscillation and Roadblock to Seasonal Predictability of the Asian Summer Monsoon., *J. Climate*, 19-20, 2006, pp.5078-5099.

④⑩ Wang, B., P. Webster, K. Kikuchi, T. Yasunari, Y. Qi, Boreal summer quasi-monthly oscillation in the global tropics., *Climate Dynamics*, 27, 7/8, 2006, pp.661-675

〔図書〕(計28件)

① 佐藤洋一郎監修、臨川書店、『ユーラシア農耕史』第5巻、2010、256頁

② 曾我亨、京都大学学術出版会、河合香吏編『集団—人類社会の変化』「関知されるくまとまり」、2010、pp.203-222

③ TOKORO Ikuya (editor), ILCAA, TUPS, Islam in Southeast Asia—Transnational

Networks and Local Contexts. (Proceedings of the International Symposium), 2010, 210頁

④ 遠藤央、印東道子、梅崎昌裕、中澤港、窪田幸子、風間計博(編) 吉岡政徳(監修)、京都大学学術出版会、『オセアニア学』、2009、569頁

⑤ 佐藤洋一郎・渡邊紹裕 共著、日本放送出版協会、『塩の文明誌』、2009、211頁

⑥ 佐藤洋一郎監修、臨川書店、『ユーラシア農耕史』第3巻、2009、254頁

⑦ 佐藤洋一郎監修、臨川書店、『ユーラシア農耕史』第4巻、2009、366頁

⑧ 真島一郎、岩波書店、歴史学研究会 編『世界史史料8 帝国主義と各地の抵抗I』「西アフリカの分割(一八九〇年)」、査読有、2009、pp.297-298.

⑨ 真島一郎、岩波書店、歴史学研究会 編『世界史史料8 帝国主義と各地の抵抗I』「リベリアへの入植(一八二〇年代)」、査読有、2009、pp.242-243.

⑩ 真島一郎、岩波書店、歴史学研究会 編『世界史史料8 帝国主義と各地の抵抗I』「アフリカ分割期におけるリベリアの主権(二〇世紀初め)」、査読有、2009、pp.299-300.

⑪ 川田順造、栗本英世、武内進一、永原陽子、真島一郎、山川出版社、川田順造 編『新版 世界各國史 10 アフリカ史』「国民国家と政治社会の未来」、査読有、2009、pp.463-527.

⑫ ed. Kazuo Ohtsuka and Dale F. Eickelman, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, Crossing Boundaries—Gender, the public, and the Private in Contemporary Muslim Societies. 2008, 151P.

⑬ 河野泰之、人文書院、秋道智彌・市川昌広編『東南アジアの森に何が起きているか—熱帯雨林とモンスーン林からの報告』、2008、23-44

⑭ 富田晋介、河野泰之、小手川隆志、ベムリ・ムタヤ・チョーダリー、弘文堂、C. ダニエルス(責任編集)『論集モンスーンアジアの生態史 第2巻 地域の生態史』、2008、181-202

⑮ 河野泰之、青雲社、林隆久編『森を取り戻すために』、2008、45-64

⑯ 河野泰之(責任編集)、弘文堂、『論集モンスーンアジアの生態史 第1巻 生業の生態史』、2008、227

⑰ 佐藤洋一郎 編、ドメス出版、『米と魚』、2008、255

⑱ 佐藤洋一郎 監修、臨川書店、『ユーラシア農耕史』第1巻、2008、274

⑲ 佐藤洋一郎、京都大学学術出版会、『イネの歴史』、2008、251

⑳ 渡邊誠一郎、檜山哲哉、安成哲三、名古屋

屋大学出版社、『新しい地球学-太陽 - 地球-生命圏相互作用系の変動学』、2008、2-8、317-324

②① 梅崎昌裕、小峰書店、『ブタとサツマイモ：自然のなかに生きるしくみ』、2007、119

②② Bouahom, B., Kono, Y. and Nonaka, K. 編, Vientiane: National Agriculture and Forestry Research Institute, Thammasat, Manut lae Saphapweadlon (Nature, Humand and Environment), 2007, 182

②③ 佐々木高明-共著-佐藤洋一郎、中央公論社、『照葉樹林文化とは何か 東アジアの森が生み出した文明』「第三部 討論 照葉樹林文化と稲作文化をめぐって」(中公新書)、2007、199-309

②④ 安成哲三、梅棹忠夫、山本紀夫編、賴惠鈴訳、臺灣商務印書館、「山的世界」、第二章 山の環境、地球的氣候取決於西藏的騎喜馬拉雅山 (第三節)、2007、402

②⑤ Saxana, K. G., L. Luohui, Y. Kono, and S. Miyata, eds., DehraDun: Bishen Singh Mahendra Pal Singh, *Small-scale Livelihoods and Natural Resources Management in Marginal Areas of Monsoon Asia*, 2006., 177p.

②⑥ 佐藤洋一郎、岩波書店、『よみがえる緑のシルクロード』、2006、204 p.

②⑦ 塩原朝子、ひつじ書房、「バリ語の接頭辞ma- 「終結点を持たない状況」を標示する接辞-」、『言語研究の射程』2006 年 27-150 頁

②⑧ 真島一郎・船田クラーセンさやか他、せりか書房、西谷修 編『グローバル化と奈落の夢』、2006、263 p.

〔その他〕

ホームページ等

・海外学術調査総括班 HP

<http://www.aa.tufs.ac.jp/~gisr/>

・Fieldnet (フィールドネット) HP

<http://fieldnet.aacore.jp>

・国際学術研究調査関係研究者データベース

<http://www.aa.tufs.ac.jp/~gisr/drosrp.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

真島 一郎 (MAJIMA ICHIRO)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：10251563

(2) 研究分担者

宮崎 恒二 (MIYAZAKI KOJI)

東京外国語大学・理事

研究者番号：40174156

床呂 郁哉 (TOKORO IKUYA)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：90272476

塩原 朝子 (SHIOHARA ASAKO)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：30313274

(3) 連携研究者

伊藤 元己 (ITO MOTOMI)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：00193524

梅崎 昌裕 (UMEZAKI MASAHIRO)

東京大学・大学院医学系研究科・准教授

研究者番号：30292725

木村 秀雄 (KIMURA HIDEO)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：10153206

河野 泰之 (KONO YASUYUKI)

京都大学・東南アジア研究所・教授

研究者番号：80183804

佐藤 洋一郎 (SATO YOICHIRO)

総合地球環境学研究所・研究部・教授

研究者番号：20145113

曾我 亨 (SOGA TORU)

弘前大学・人文学部・准教授

研究者番号：00263062

高樋 さち子 (TAKAHI SACHIKO)

秋田大学・教育文化学部・准教授

研究者番号：00261644

星野 洪郎 (HOSHINO HIROO)

群馬大学・大学院医学系研究科)

研究者番号：00107434

本山 秀明 (MOTOYAMA HIDEAKI)

国立極地研究所・研究教育系・教授

研究者番号：20210099

安成 哲三 (YASUNARI TETSUZO)

名古屋大学・地球水循環研究センター・教授

研究者番号：80115956